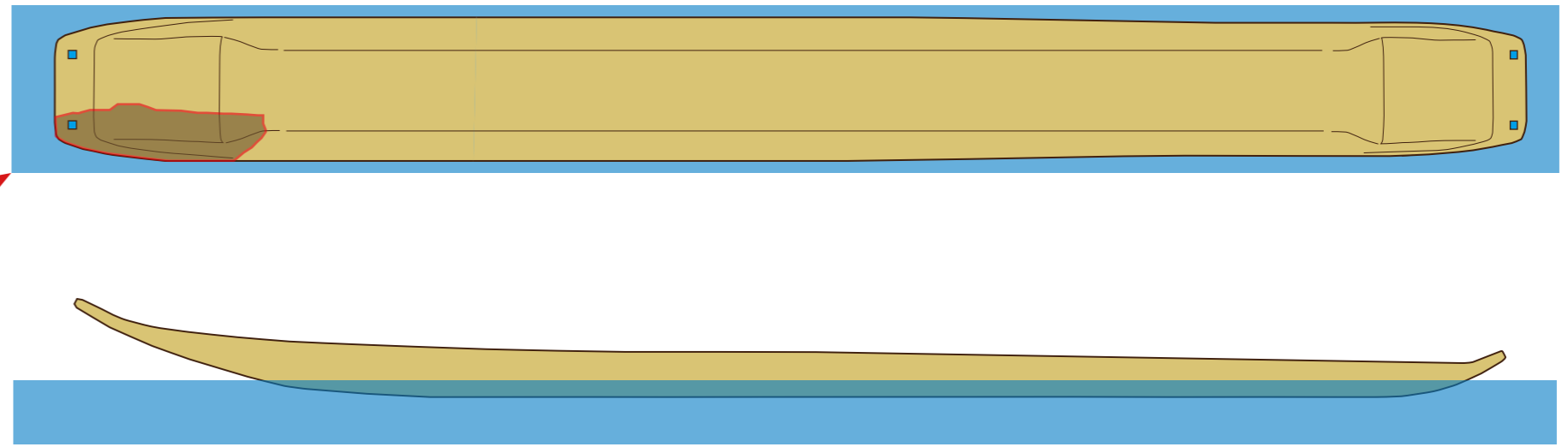


あ お や か み じ ち 青谷上寺地遺跡の船



青谷上寺地遺跡独特の丸木舟

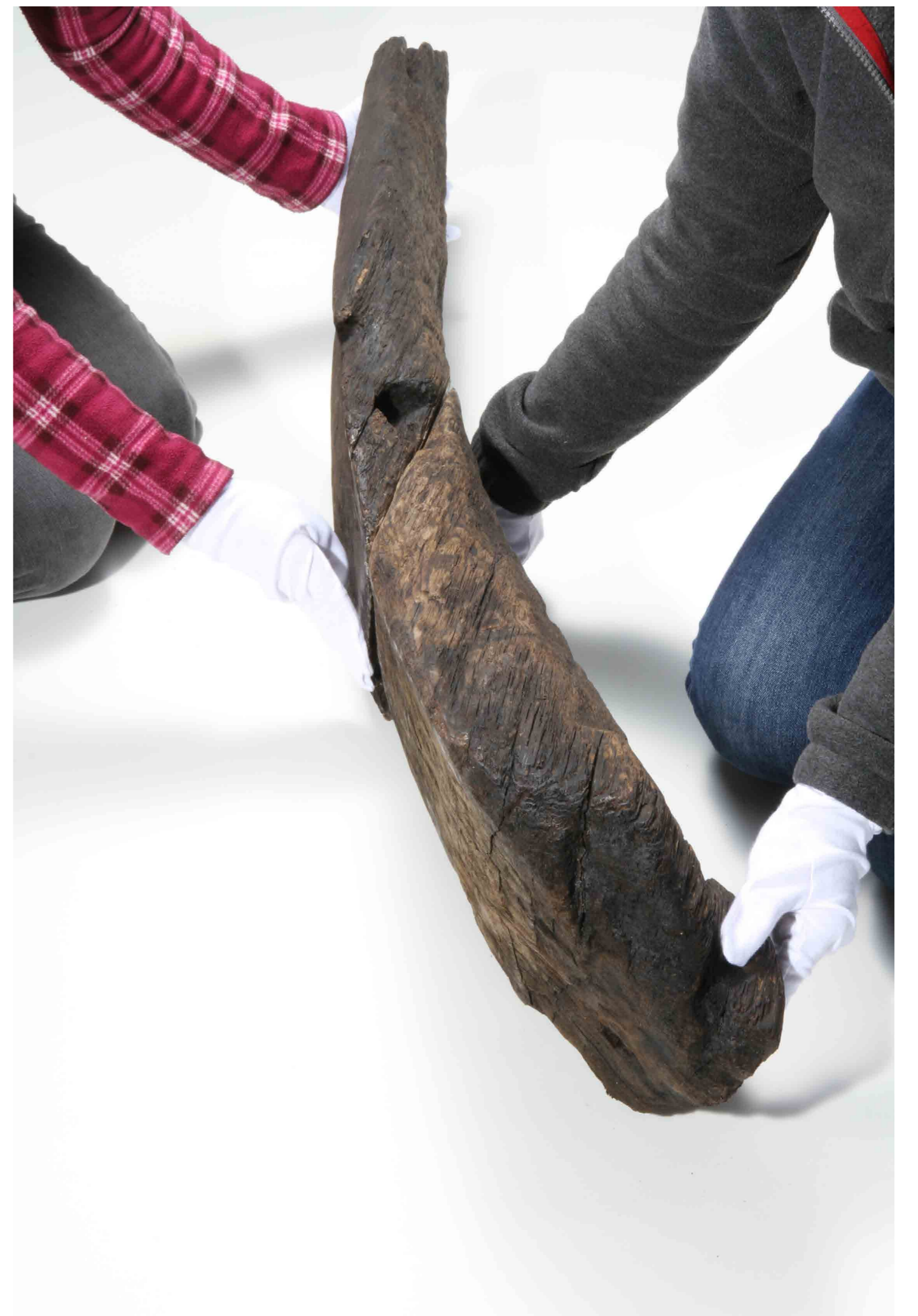


青谷上寺地遺跡独特の丸木舟 (復元図)

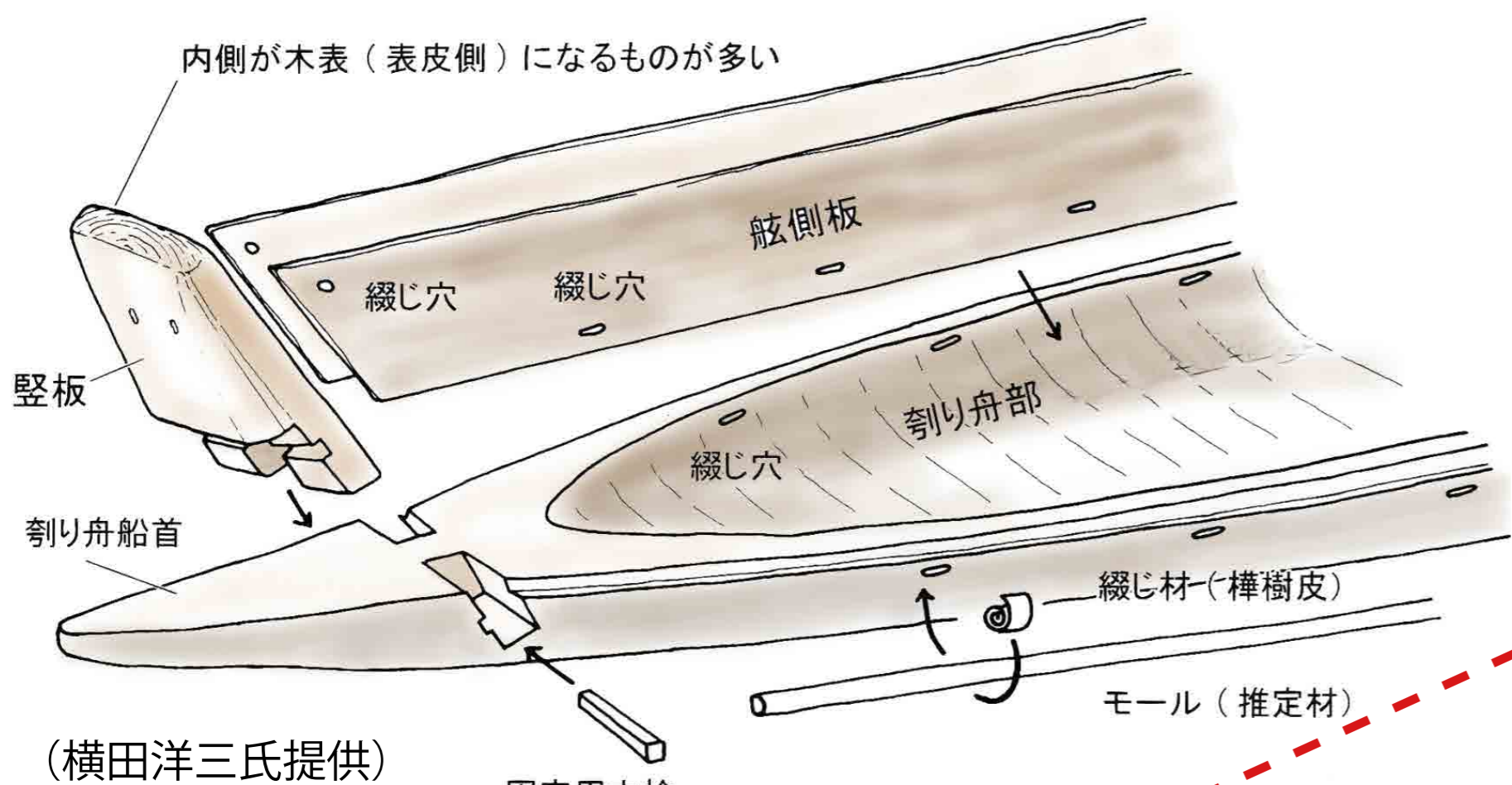
青谷上寺地遺跡からは約50点の船の破片が見つかっています。遺跡の周辺にスギの大木が豊富に自生しており、船の材料には事欠かなかったようです。これらの船は、大きく2種類に分けることができます。一つは「丸木船」。縄文時代以来、丸太を縦に割って割り抜いた丸木船が使われてきましたが、青谷上寺地遺跡の丸木船は構造がまったく異なっており、船首・船尾は平面が四角形に整形され、大きく反り上がり、船内は船首・船尾付近のみ浅く割り残されて段を成しています。

ています。

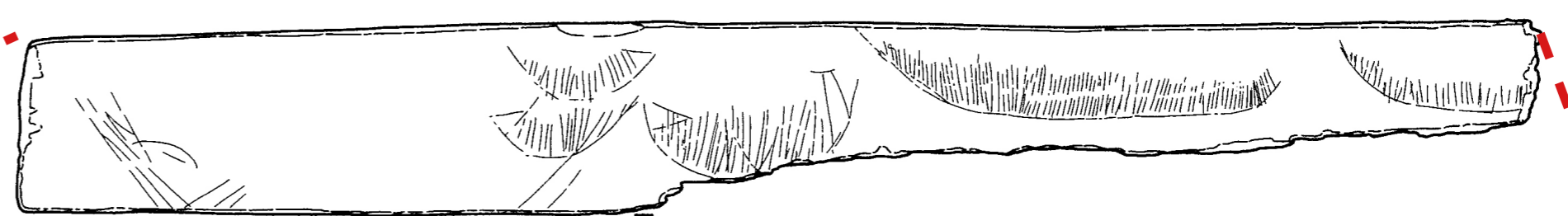
もう一つは「準構造船」。丸木船の舷側(船べり)に板(舷側板)を継ぎ足し大型化を図った船です。準構造船は、推定長15~20mに及ぶ大型の船体が見つっていますが数は少なく、一方で丸木船は数が多く、推定長は5~10mです。丸木船は内湾・近海での漁労や近距離の交易用、準構造船は外洋を渡る交易用でしょうか。様々な船が存在したことは、大小6隻の船を描き分けた板絵が見つまっていることから裏付けられます。にぎわう青谷上寺地の港を描いたものでしょうか。



青谷上寺地遺跡最大の準構造船



(横田洋三氏提供)
じゅんこうぞうせん
準構造船の基本構造 (縦板型)



0 20cm



船を描いた板